

展覧会開催を通じた交流と記録物の作成

特定非営利活動法人かさおか島づくり海社

活動の目的

内閣府では、「関係人口」と呼ばれる、継続的に多様な形で地域づくりの担い手として関わる地域外人材の、創出と拡大を進めている。過疎・少子高齢化などから地域づくりの担い手が不足する笠岡諸島でも、そうした島の応援団とも言える関係人口の創出及び継続的な交流が、六島や白石島を始め、それぞれの島で行われてきた。しかしそれぞれの島、それぞれの組織・イベントでの交流にとどまっており、他の島の組織との連携や、関係人口同士が繋がることでの、新たな関り方の創出（例えば笠岡諸島全体への、通年での関係人口の関わりしろの創出）などへの発展には至っていない。

そこで、地域と関係人口、地域同士・関係人口同士の橋渡しの中間支援的活動として、関係人口創出の源泉でもある笠岡諸島の豊かな「ヒト・モノ・コト」を、宝物として可視化・発信し、横の繋がり創出と更なる関係人口獲得に繋げたいと考えた。

活動の内容及び経過

- 4月～5月… 展覧会（画像とエピソード）募集要項作成
- 6月～8月… 展覧会の作品募集（キーマンへの訪問など）
- 9月～12月… 展覧会の応募作品の取りまとめ
- 1月～2月… 展覧会構成の検討、開催に係る調整の実施
- 2月… 展覧会 記録物原稿、展示物データの制作。展示内容の調整
- 3月… 展覧会「笠岡諸島 記憶と記録の展覧会」の開催。展覧会図録（記録物）の発行

活動の成果・効果

写真展の開催を通じて、応募者や観覧者からの意見を頂けた。具体的なものとして島民からの「自分が知らなかった他の島の魅力、側面を知ることができた」という声や、島外在住の若者からの「自分の祖父が漁師だったという話をきいたが、六島の湛江港の風景から、それがイメージできて嬉しかった」といった声などがあつた。そのように、島にゆかりがある人々が思う、大切にしたいものの可視化と、それをどう守っていくかということについて、協議の種をまくことができたと考える。今年度はコロナ禍という事もあり、広く成果報告会や意見交換会を開催することは叶わなかったが、寄せられたご意見や作成した記録物等をもとに、島の魅力の維持、関係人口の創出・満足度の向上等にどんな活動・どんな事業が必要かについて、弊社の既存の活動の在り方等を踏まえた意見交換を、有志で行うこともできた。



展覧会 会場風景その1



展覧会 会場風景その2



島しょ部(白石島)での募集説明(7/26)



関係人口を生む写真展告知_アートボード

今後の課題と問題点

「関係人口を生む宝物の写真」に加え、エピソードも併せて提出を、とテーマ設定をしたせいか、応募点数は少なかった。募集期間中に島しょ部公民館等を訪問してのキーマンへの応募依頼や、大学生への連絡を行うなどしたが、そうした繋がり以上の応募の広がりはあまり見られなかった。しかしそのかきもあり、印象的な写真、エピソードの応募に繋がったため、写真展のねらいに鑑み、広く一般を対象にせず、応募者を選定し、企画展のような形での開催も有効ではないかと感じた。

また、令和2年度後半となっても、新型コロナウイルス変異株の影響などにより、感染拡大に対する警戒を緩めることができず、人を集めての意見交換などが実施しにくい状況が継続した。現在でも警戒が続くことから、今後はそうした状況下でも関係人口同士の交流や創出に繋がるような、オンラインでの事業開催等運営の工夫が必要であると感じた。

- 代表者：鳴本浩二 ●所在地：笠岡市北木島町
- TEL：0865-68-3741 ●E-MAIL：info@shimazukuri.org
- URL：https://www.shimazukuri.org/
- 設立年：2006年 ●メンバー数：13名